

フォシーガ錠 を 服用される方・ご家族の方へ

✓このお薬は **慢性腎臓病** の
治療を目的に処方されています



- フォシーガ錠を服用する前に必ずお読みください。
- ご不明な点は処方医にご相談ください。

病院・医院・薬局名

製造販売元

アストラゼネカ株式会社

販売

小野薬品工業株式会社

TSPFXG6@A

FXG-F041A

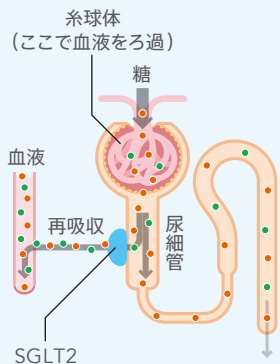
2025年1月作成

フォシーガ錠について

フォシーガ錠(SGLT2阻害剤)は、腎臓にはたらし、余分な糖やナトリウムを尿と一緒に排泄することで腎臓の負担を軽減します。これにより、腎臓や心臓を保護し、慢性腎臓病の進行を遅らせるお薬です。

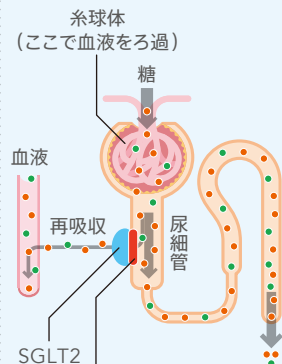
● = 糖 ● = ナトリウム

フォシーガ錠 投与前



通常、尿には糖やナトリウムは排出されない

フォシーガ錠 投与後



SGLT2阻害剤
(フォシーガ錠)

糖と一部の
ナトリウムを
尿として排出

服用にあたって

- 服用開始早期に一過性の腎機能の低下がみられることがあります。
- このお薬を服用している間は、定期的に腎臓の検査を受けてください。
- このお薬を服用していると、尿糖検査が陽性になることがあります。医療機関で尿検査を受ける際は、フォシーガ錠を服用していることを医師にお伝えください。

● 糖尿病の方へ

一般的に糖尿病の方では発癌のリスクが高まると言われています。このお薬と発癌との因果関係は確立されていませんが、膀胱癌の治療中または既往のある方、フォシーガ錠の服用中に血尿を認めた方は、診察時、必ず医師に報告してください。



服用方法は？

フォシーガ錠10mgを1日1回、
毎日決めた時間に飲みましょう。

- このお薬は、食事に関係なくいつでも飲むことができます。
- 医師の指示がある場合は、それに従ってください。
-  (10mg1錠) が処方されます。
- ※ (5mg2錠) の場合もあります。



【1型糖尿病の方へ】

- インスリンの量を調整するため、 (5mg1錠) から服用を開始します。
- インスリンは絶対に中断しないでください。

飲み忘れた場合、2回分(2日分)を
一度に飲まないでください。

- 飲み忘れに気づき、次の服用時間まで半日以上ある場合は、できるだけ早く1回分を飲んでください。
- 次の服用時間まで半日未満の場合は、1回とばして、次の通常の服用時間に1回分を飲んでください。
- 誤って多く飲んだ場合は、医師または薬剤師にご相談ください。

次の状態の場合には、
次の服用の前に、ただちに主治医に
連絡し、指示に従ってください。

- 熱がある
- 下痢・おう吐などがある
- 食欲がない、食事が十分とれない



水分補給について

このお薬は、**血糖値が高いほど尿に糖が多く出て尿量が増えるため、特に糖尿病の方には脱水症状**があらわれることがあります。症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

脱水による症状



のどが渇く



めまいがする



疲れやすい



食欲がない など

水分補給時の注意点

- 水分バランスを保つ機能が低下していることがありますので、医師の指示に従ってください。
- 特に糖尿病の方は、尿量が増える可能性があるため、医師の指示に従ってください。
- アルコール摂取は水分補給にはなりません。



特に注意が必要な方

- 糖尿病の方（血糖マネジメントが極めて不良な方）

（尿量が増える可能性があるため、医師の指示に従ってください。
糖分を含む清涼飲料水での水分補給は避けてください）

- 高齢の方
- 認知症などで、飲水・食事などの介助が必要な方
- 心不全の方

（水分をとりすぎると心不全が悪化することがありますので、
医師の指示に従ってください）

- 利尿剤を服用している方

- 暑い中で作業される方

（農作業、スポーツ〔指導を含む〕など）

- 飲酒される方

（飲酒は医師の指示に従ってください）

特に注意が必要なとき

- 体調がすぐれないとき（発熱、下痢、おう吐などがある）
- 食事・飲み物がとれないとき

服用中に気をつけるべきことは？

尿路の感染症(尿道炎、膀胱炎) 性器の感染症(膣カンジダ症など)

- 排尿時の痛み・灼熱感
- 陰部のかゆみ・痛み
- トイレに近い など

女性の場合
おりもののにおいが
強くなる、
色が変わる など

日頃から次のことに
気をつけてください。

- トイレを我慢しないようにしましょう。
- 排尿・排便の後は清潔を保つようにしましょう。

特に注意が必要な方

- 糖尿病の方

このお薬の服用中に、次のような症状が
あらわれた場合は、医師にご相談ください。



下記の症状を伴う場合は、ただちに医療機関
を受診してください。

- 寒気、発熱
- 脇腹・背中の痛み
- 関節・筋肉の痛み
- 陰部の圧痛・赤み・腫れなどがあり高熱を伴う場合 など

尿路・性器感染症の治療が遅れると、腎盂腎炎
／会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)、
敗血症などの重篤な感染症に至ることが
あります。

服用中に気をつけるべきことは？

低血糖症状



- 手足のふるえ、冷や汗、顔が蒼白い、動悸
 - 疲れやすい、不安感など
- 低血糖症状は個人差があります。



このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

特に注意が必要な方

- 糖尿病の方

低血糖症状があらわれた場合は？

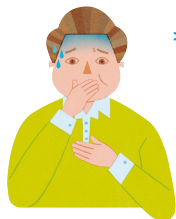
- 糖質を含む食品や砂糖をすぐにとりましょう
例) ブドウ糖や砂糖を含む飲料水など
- α -グルコシダーゼ阻害剤を併用している場合は、砂糖ではなく、ブドウ糖をとってください。それでも回復がみられない場合は、**早急**に医師にご相談ください。

低血糖症状があらわれたことを診察時、医師に必ず報告してください。また、自分で対応ができない場合に備え、低血糖についての注意は、ご家族やまわりの方にもお知らせください。

服用中に気をつけるべきことは？

ケトアシドーシス*

- 吐き気、おう吐、
食欲がない
- 腹痛
- 激しいのどの渇き
- からだがだるい
- 息切れ
- 意識の低下



* 脂肪酸がエネルギー源として使われるときに、分解物であるケトン体という物質が血液中に溜まると、血液が酸性に傾きます。その状態を「ケトアシドーシス」といいます。

ケトアシドーシスは通常、高血糖がみられますが、このお薬を服用中は、高血糖がみられなくても、これらの症状があらわれることがあります。上記の症状があらわれた場合は、早急に医療機関を受診し、ケトン体を測定してもらってください。

このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

特に注意が必要な方

●糖尿病(特に1型糖尿病)の方

【1型糖尿病の方へ】

別途お渡ししている「ケトアシドーシスのリスクを最小限におさえるために」をよく読んでください。また「携帯カード」を必ず持ち歩いてください。

特に注意が必要なとき

- インスリン製剤を打ち忘れたとき、減量・中止したとき
1型糖尿病の方は、インスリンは絶対に中断しないでください。
- 過度な糖質摂取制限(低炭水化物ダイエットなど)を行っているとき
ダイエットなどを行う場合は医師の指示に従い、自己判断で過度な糖質摂取制限を行わないでください。
- 飲酒したとき ●過度な運動を行ったとき
- 熱がある、下痢・おう吐などがある、
食事がとれない場合



MEMO

```
date      .      .
```

[illegible]

MEMO

```
date      .      .
```

[illegible]